

「慢性腎障害及び造影剤腎症における腎洞脂肪の関連性の 評価」に対するご協力のお願い

研究代表(責任)者 本間 康一郎
研究機関名 慶應義塾大学医学部
(所属) 救急医学

このたび当院では上記の医学系研究を、慶應義塾大学医学部倫理委員会の承認ならびに研究機関の長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施します。

今回の研究では、同意取得が困難な対象となる患者さんへ向けて、情報を公開しております。なおこの研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「8 お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。

1 対象となる方

西暦 2013 年 4 月 1 日より 2014 年 3 月 31 日までの間に、救急科に入院し造影剤を使用した方。なお、本研究への不参加を表明した方は対象となりません。

2 研究課題名

承認番号 20231019

研究課題名 慢性腎障害及び造影剤腎症における腎洞脂肪の関連性の評価

3 研究組織

研究代表機関

研究代表者

慶應義塾大学医学部救急医学・ (職位) (氏名) 准教授 本間康一郎

慶應義塾大学病院救急科

4 本研究の目的、方法

日本再興計画や健康日本 21 において、“健康寿命の延伸”が目標の一つとして大きく掲げられています。腎臓においては、生活習慣病と大きく関係する慢性腎症病(CKD)の増加により、本来の寿命に至る前に腎臓の寿命となってしまう、人工透析を導入する高齢者が増加し医療経済を圧迫して

いる状況があります。CKD のかたは我が国において現在約 1300 万人、透析を必要とするかたは 30 万人を超え、急速に進む高齢化を背景に今後ますます増加することが容易に予想され、病態を理解すべき重要な課題です。そのような中で、近年の研究により、肥満、高血圧、CKD が関連することがわかってきました。特に、腎洞脂肪の多い「脂肪腎」が CKD との関連因子として注目されています。そこで「脂肪腎」に関連した CKD の発生率や脂肪量と CKD の重症度との相関、検査所見を含めた臨床的特徴、予後、その他の関連因子などを調査致します。また、CKD 患者では、造影剤投与後に造影剤腎症 (contrast-induced nephropathy: CIN) を発症するリスクが高いため、CKD を背景に持つかたの CIN についても「脂肪腎」と関連した発症率や特徴を調査致します。

5 協力をお願いする内容

上記情報を収集するために、診療録の閲覧、画像データから下記の項目を閲覧をさせていただきます。費用負担は一切ありません。

年齢、性別、病名、Cr、尿蛋白、尿潜血、血圧、併存疾患（CKD、うっ血性心不全、高血圧、糖尿病の割合、冠動脈疾患、脳血管障害、末梢動脈硬化性病変、造影剤使用の有無及び回数、貧血、APACHE II スコア、SOFA スコア、転帰、入院期間、透析実施割合、腎洞脂肪量、腎臓体積

6 本研究の実施期間

研究実施許可日～2025 年 3 月 31 日

7 外部への試料・情報の提供

なし

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、情報の利用の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

前島克哉 救急医学 03-3225-1323

以上